

令和5年度

印旛地区教育研究集会

生活科分科会 提案資料

研究主題

わかった・できたを実感できる、活力あふれる生活科学習

～学び合い・教え合い活動を通して～

第3部会 白井市立白井第三小学校

高畑 絵美

寺島 歩南

1 研究主題

わかった・できたを実感できる、活力あふれる生活科学習
～学び合い・教え合い活動を通して～

2 主題設定の理由

(1) 学習指導要領から

生活科の教科目標は、次のとおりである。

具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わり等に気付くとともに、生活上必要な習慣や技術を身に付けるようにする。
- (2) 身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え、表現することができるようにする。
- (3) 身近な人々、社会及び自然に働きかけ、意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとする態度を養う。

学習指導要領の「自立し生活を豊かにしていく」ことは、学習の中で、「わかった・できた」を実感することにより、自分への自己肯定感が高まり、自立へと向かっていく。そして、自分自身の成長とともに周囲との関わりを深めていく中で、豊かさが得られる。

(2) 学校教育目標から

〈学校教育目標〉

自ら学ぶ 心豊かで たくましい児童の育成

〈目指す児童像〉

- 自ら考え、判断したことをわかりやすく表現できる子
- やさしく思いやりのある子
- あきらめず努力し、進んで体を鍛える子

本校の教育目標を実現させるために、「やればできる」を学校経営の重点としている。基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、児童ができそうな状況を作り、「わかった」「できた」という歓声のあがる授業作りに取り組んでいる。また、生活科だけではなく、様々な教育活動の中で、学び合いや教え合い活動を通して、児童相互での気付きや互いに認め合う気持ちを重視していく。「何事にもあきらめずに取り組む気持ちをもつ」、「やればできる」、「友達の良さや頑張りを称賛する」、このような力を「活力」ととらえ、本校では、生活科の授業を通して、活力あふれる児童の育成を図り、教育目標の具現化を目指していきたいと考える。

(3) 児童の実態から

本校は市の南西部に位置しており、鎌ヶ谷市と船橋市に隣接している。近隣には、競馬学校があり、学区には、保育園や学習等供用施設（白井市富士センター）があり、地域の方と触れ合える環境にある。毎朝見守りしていただいている、登校ボランティア（地域の方）がいたり、入学式や卒業式の日には、通学路をリボンで飾ってくれる地域ボランティアの方がいたり、地域の方に温かく見守られている。

しかし、コロナ禍で、その地域の特色を生かした交流活動や関わり合う機会が減ってしまった。異学年・学級内の児童同士の話合いや関わり合いも制限されることが多く、児童は、活動の中での気づきを友達と共有したり、楽しさを分かち合ったりすることが難しい時期もあった。

毎日の生活を共にする学級の中で、友達と関わることで学びは深められていく。学級という場で、自分で学び、友達への教え合い活動を取り入れていくこととし、さらに児童同士の関わりを広げたい。そこで、「おもちゃづくり」の学習を通して、自分で学んだり、友達と教え合ったりする場面を意図的に組み込んでいく。限られた交流活動や関わりの中で、気付いたことやできるようになったことをどう表現するかを考え、活動させたい。本研究を通して、友達と関わる楽しさを学び、学び合いや教え合い活動を通して、気づきの質が高められると考える。

(4) 主題について

本校では、昨年度まで体育科の研究を進めてきた。学習の流れの中に、効果的なドリル運動を取り入れたり、視覚的資料を取り入れたりすることで児童が運動することを楽しみ、「わかった・できた」を実感することができた。そこで、体育科の研究を生かし、生活科でも、学習の流れを提示し、児童自身が見通しをもったり、友達と交流したりすることで、わかった・できたを実感できる取り組みをしていくこととした。

児童が主体的に活動するためには、児童の気づきを大切に、学び合いや教え合いを生かした学習活動を設定することが重要であると考え。友達との教え合いの中で、気づきがあり、知り得たことを自分の中で学びにつながっていく。その中で諸感覚を働かせて、自然や様々な人と関わりをもちながら活動することにより、児童はいろいろなことに疑問をもち、様々なことに気付いていく。そして、その疑問や気づきを身近な人々に伝えたい、共有し情報交換をしたいという児童の願いが一層強まり、児童が主体的に活動し、さらに気づきの質が高まって、活力あふれる活動になることを期待している。

3 研究仮説

仮説1 学習のゴールを明確にした学習計画を工夫したり、児童に身に付けさせたい資質や能力を明確にしたりすれば、見通しをもって学習に取り組み、確かな学力を身に付けることができるだろう。

児童が主体的に活動するために、気づきを確かなものとしたり、新たな気づきを得たりするために多様に表現し考える、多様な学習活動を重視していく。また、学習の流れを提示し、活動の見通しをもたせた学習活動を設定することが重要と考える。

仮説2 友達の良さを称賛する活動を取り入れたり、他者と伝え合い、交流する場を工夫したりすれば、自他の成長を喜び合える、前向きで活力あふれる児童を育成することができるだろう。

友達との学び合いや教え合いを繰り返していくことで、相手のよさを感じ取ったり、自分のよさを伝えたりすることができるとともに、友達と関わる楽しさを実感することができるであろう。さらには、自分の生活との関わりをさらに広げ、深めることができる考える。

児童は、自分が発見したことや感動したことを誰かに伝えたいという気持ちをもっている。一生懸命に活動して得たことなら、なおさらである。誰かに一緒に驚いてほしい、発見した喜びを共有してほしいという素直な気持ちを大事にしたい。そこで、学習活動の中にそれまでの学習を通して児童一人一人が気付いたことや、わかったことなどを友達に伝える場を設定する。

手立て

- 1 試行錯誤や繰り返す活動を設定する
 - ・試行錯誤を繰り返し、条件を変えて試してみる過程で、おもちゃ作りへの気付きの質を高めていく。
- 2 伝え合い交流する場の工夫
 - ・友達から称賛されることにより意欲の向上を図る。
- 3 振り返り表現する機会
 - ・体験したことと関係付けて、言葉で表現する。
- 4 児童の多様性を生かす
 - ・自立し生活を豊かにするための資質・能力の育成を図る。
 - ・児童の思いや願いに寄り添う。

4 授業実践（1年）

※本実践は、令和4年度1年生の実践をもとに、授業改善や仮説の検証を行った。

（1）単元名 かぜとなかよし

（2）単元について

①単元観

本単元は、学習指導要領の以下に該当する。

（6）身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりするなどして遊ぶ活動を通して、遊びや遊びに使う物を工夫してつくることができ、その面白さや自然の不思議さに気付くとともに、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとする。

本単元は、季節が冬に変化したことを校庭の様子や日々の生活から感じ取り、「風」を利用したおもちゃづくりについて友達と話し合い、教え合いながら行うことで、「風」を利用して遊ぶことの面白さや不思議さについて気付きを高めていけるようにする。また、作ったおもちゃで遊びながら、自然への興味や関心を高め、みんなで遊ぶ楽しさを実感したり、さらに遊びを工夫したりできるようにする。

②児童の実態

本学級の児童は、春に学校探検で発見したことを発表し合い、夏は様々な道具を使ってシャボン玉を行った。その際、どうしたらシャボン玉が空中に飛ぶのか、大きいシャボン玉ができるのかと試している様子が見られた。だが、このように自分で気付き、試行錯誤していた児童は数人程度で、教え合いもあまり活発には行われていなかった。秋には、どんぐりや松ぼっくり、落ち葉などを使っておもちゃづくりを行い、材料を選んだり、組み合わせを変えてみたりと様々な工夫が見られた。意欲的に活動する一方で、個人での活動にとどまってしまう、進んで自分の気付きを友達と共有したり、友達の気付きを自分の作品に取り入れたりできる児童が少なかった。

③指導観

単元の導入では、秋に作ったおもちゃや今回の学習前に取り組んだ凧揚げで楽しく遊んだことを想起させるとともに、教師の作った見本や遊び方を見せたりして、児童の学習に対する意欲を高められるようにする。

1・2時間目では教科横断的視点から図画工作科と合わせて、「紙飛行機」「風車」「風輪」「傘袋ロケット」を作る。児童一人一人が4種類全てのおもちゃを作る時間を設け、「紙飛行機をもっと遠くに飛ばしたい」「風車はどうしたらもっと早く回るのか」などの思いや疑問をもって学習に取り組み、意欲の維持を図る。紙を折ったり、はさみを使って紙コップや紙皿を切ったり、ホッチキスやセロハンテープで留めたりする製作過程で、それらの基礎的な技能を身に付けられるようにする。また、風で動くおもちゃの基本的な作り方と遊び方を知り、改善点などを児童自身で見付けていく活動を通して基礎的な知識の獲得や思考力の育成を目指す。

3・4時間目には、改良したいおもちゃを1つ選び、おもちゃごとに集まって、「紙飛行機をもっと遠くに飛ばす」「風車をもっと回るようにする」などの目標に向かって友達と話合ったり、教えあったりしながらおもちゃを改良していく。このような活動の中で、自分と友達の作品の違いやそれぞれの良さを発見し、気付きの質を高められるようにしたい。そのため、作品を比べる時の見る視点を与えたり、話合いの進め方を助言したりする。また、どのように改良していくとよいか共に考え、話合い、作り直していく過程で新しい発見があることやみんなと活動すると楽しいことなどを実感できるようにし、児童たちが互いの良さを称賛し、成長を喜び合い、活力あふれる姿になることを目指す。

5時間目には、それぞれのグループが改良したおもちゃの工夫点を発表し、以前作った未改良のおもちゃを作り直したり、楽しく遊んだりする活動を通して、風を利用して遊ぶことの面白さや不思議さに気付けるようにしていきたい。

(3) 単元の目標

- ・風で動くおもちゃを作ったり、おもちゃで遊んだりして、動きや風を利用して遊ぶことの面白さや不思議さに気付くことができる。(知識及び技能の基礎)
- ・試行錯誤を繰り返しながら、風で動くおもちゃを作ったり、遊び方を工夫したりすることができる。(思考力、判断力、表現力等の基礎)
- ・風を利用したおもちゃづくりに関心をもち、友達と教え合いながらおもちゃを作ったり、みんなと楽しく遊んだりする。(学びに向かう力、人間性等)

(4) 指導と評価の計画 (5時間扱い) 図画工作科で1時間

時配	学習内容と学習活動	評価規準 (評価の観点) 【評価の方法】
1・2 (図画工作科)	<p>※本単元を学習する前に、凧揚げ等で風を感じる体験をする。</p> <p>小単元「かぜとなかよし」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・風で遊んだ経験や風で動くおもちゃの実物、動画などをもとに風で動くおもちゃの作り方や遊び方を考えさせる。 ・風で動くおもちゃ「紙飛行機」「風車」「風輪」「傘袋ロケット」を作る。 ・4種類のおもちゃの中から、さらに改良して作りたいおもちゃを1つ選ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・風を利用したおもちゃを作ろうとしている。 (主体的に学習に取り組む態度) 【発言・行動】 ・風で動くおもちゃを作り、作り方を知ったり、動きに気付いたりしている。 (知識及び技能の基礎) 【発言・行動】
3・4	<ul style="list-style-type: none"> ・あらかじめそれぞれが選んだおもちゃごとにグループを作成しておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・材料を選んだり、作り方を考えたりと試行錯誤しながら、おもちゃの作り方や遊び方

5	<ul style="list-style-type: none"> 各グループで、改良したいところについて話し合い、よりよいおもちゃを作ってみる。 グループごとに工夫したことをみんなに発表する。 グループで工夫したこと、自分が発見したことや気付いたことなどをワークシートに書く。 <ul style="list-style-type: none"> 以前作った自分のおもちゃをおもちゃごとの名人（3・4時間目で改良した人）たちに教えてもらい、改良して遊ぶ。 名人に教えてもらったこと、改良したらどうなったかなど、気付いたことをワークシートに書く。 	<p>を工夫している。 (思考力、判断力、表現力等の基礎) 【発言・行動】【ワークシート】</p> <ul style="list-style-type: none"> 風で動くおもちゃづくりに関心を持ち、友達と教え合いながらおもちゃを作ったり、おもちゃで遊んだりしている。 (主体的に学習に取り組む態度) 【発言・行動】 風で動くおもちゃで遊び、自然を利用して遊ぶことの面白さや不思議さに気付いている。 (知識及び技能の基礎) 【発言・行動】 風を利用したおもちゃ遊びに関心を持ち、みんなで楽しく遊んでいる。 (主体的に学習に取り組む態度) 【発言・行動】
---	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(5) 本時の指導 (3・4/5)

①目標

- 材料を選んだり、作り方を考えたりと試行錯誤しながら、おもちゃの作り方や遊び方を工夫できる。

(思考力、判断力、表現力等の基礎) 【発言・行動】【ワークシート】

- 風で動くおもちゃづくりに関心を持ち、友達と教え合いながら、おもちゃを作ったり、おもちゃで遊んだりしようとする。

(主体的に学習に取り組む態度) 【発言・行動】

②展開

時配	学習内容と学習活動	指導と支援 ○評価 ☆仮説との関連	資料
5	<p>【見いだす】</p> <p>1 前時の振り返りをし、本時の学習内容とめあてを確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> それぞれのおもちゃをどのように改良していくとよいのか確認する。 <p>☆前時までには作ったおもちゃをどのよう</p>	<p>紙 折り紙 紙皿 傘袋 紙コップ</p>

		<p>に改良し、よりよくするのかを全体で確認したことで、見通しをもって活動できた。(仮説1、手立て4)</p>	<p>綿棒 ストロー 爪楊枝 はさみ セロハン テープ ホッチキス</p>
<p>もっとパワーアップしたおもちゃをつくろう。</p>			
<p>4.5</p>	<p>【自分で取り組む】【広げ深める】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループに分かれ、どこを改良するとよくなるかについて話合う。 <div style="text-align: center;">  <p>「紙飛行機」 〈目標〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遠くに飛ばしたい、空中に長く飛ばしたい、速く進むようにしたい、まっすぐ飛ばしたい </div> <div style="text-align: center;">  <p>「風車」 〈目標〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・速く回るようにしたい、たくさん回るようにしたい </div> <div style="text-align: center;">  <p>「風輪」 〈目標〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まっすぐ進むようにしたい、倒れず進むようにしたい </div> <div style="text-align: center;">  <p>「傘袋ロケット」 〈目標〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遠くに飛ばしたい、空中に長く飛ばしたい、まっすぐ飛ばしたい </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・あらかじめそれぞれが選んだおもちゃごとにグループを作成しておく。 ・おもちゃを比べる時の視点を与えたり話合いの進め方を助言したりする。 ・おもちゃを作るときは、安全に道具を使うよう指導する。 ・おもちゃづくりの材料は、様々な種類を用意しておく。 ・適切な話合いができるように、「友達の話をよく聞く」などの約束などを確認する。 ・話合いが難しいグループには、教師が補助に入る。 ・安全におもちゃで遊ぶために、「はさみを人に向けない」などのルールを確認する。 <p>○材料を選んだり、作り方を考えたりと試行錯誤しながら、おもちゃの作り方や遊び方を工夫している。</p> <p style="text-align: center;">(思考力、判断力、表現力等の基礎)</p> <p style="text-align: center;">【発言・行動】【ワークシート】</p> <p>○風で動くおもちゃづくりに関心を持ち、友達と教え合いながら、おもちゃを作ったり、おもちゃで遊んだりしている。</p> <p style="text-align: center;">(主体的に学習に取り組む態度)</p> <p style="text-align: center;">【発言・行動】</p> <p>☆グループごとに試行錯誤するなかで、学び合いや教え合いが活発になり、自</p>	

ここをこうやって
折るんだよ。

こう？



どうしてまっすぐ進ま
ないんだろう？

お皿の向きが違うん
じゃないかな？



分が改良した作品を称賛されたり、友
達の作品の良さを認めたりすることが
できた。(仮説2、手立て1・2・4)

そこに線を引くん
だよ。

こうかな？



この羽はどうやってつける？



- ・話合ったことを生かしながら、おもちゃを作り、遊んでみる。

まっすぐ進むかな？



15

- ・グループごとに工夫したことをみんなに発表する。

羽を大きく曲げてみました。こんな風に回るようになりました。

20



【まとめあげる】

5

- ・本時の振り返りをするとともに、次時の活動について知る。

- ・さらに気付いたことを生かして試行錯誤を繰り返す。

お皿とお皿の間を広げてみようかな。



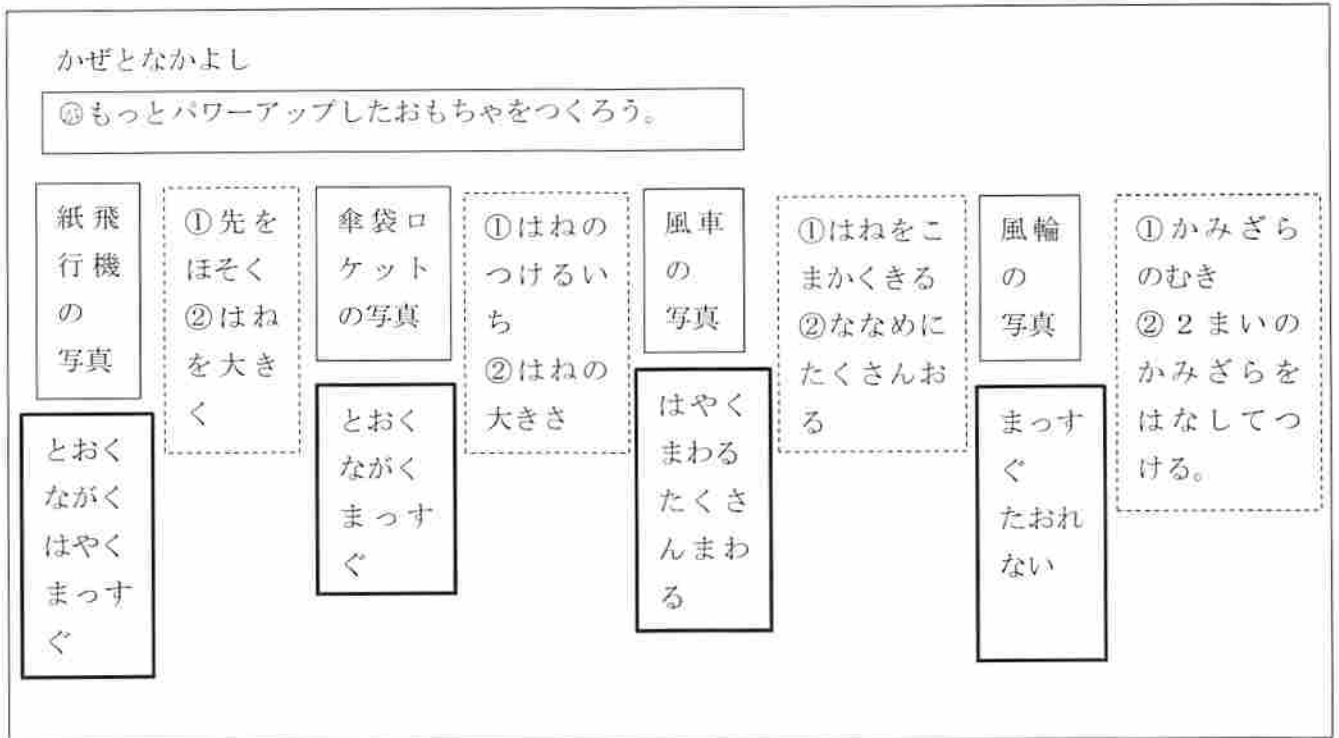
- ・グループで工夫したこと、自分が発見したことや気付いたことなどをワークシートに書く。



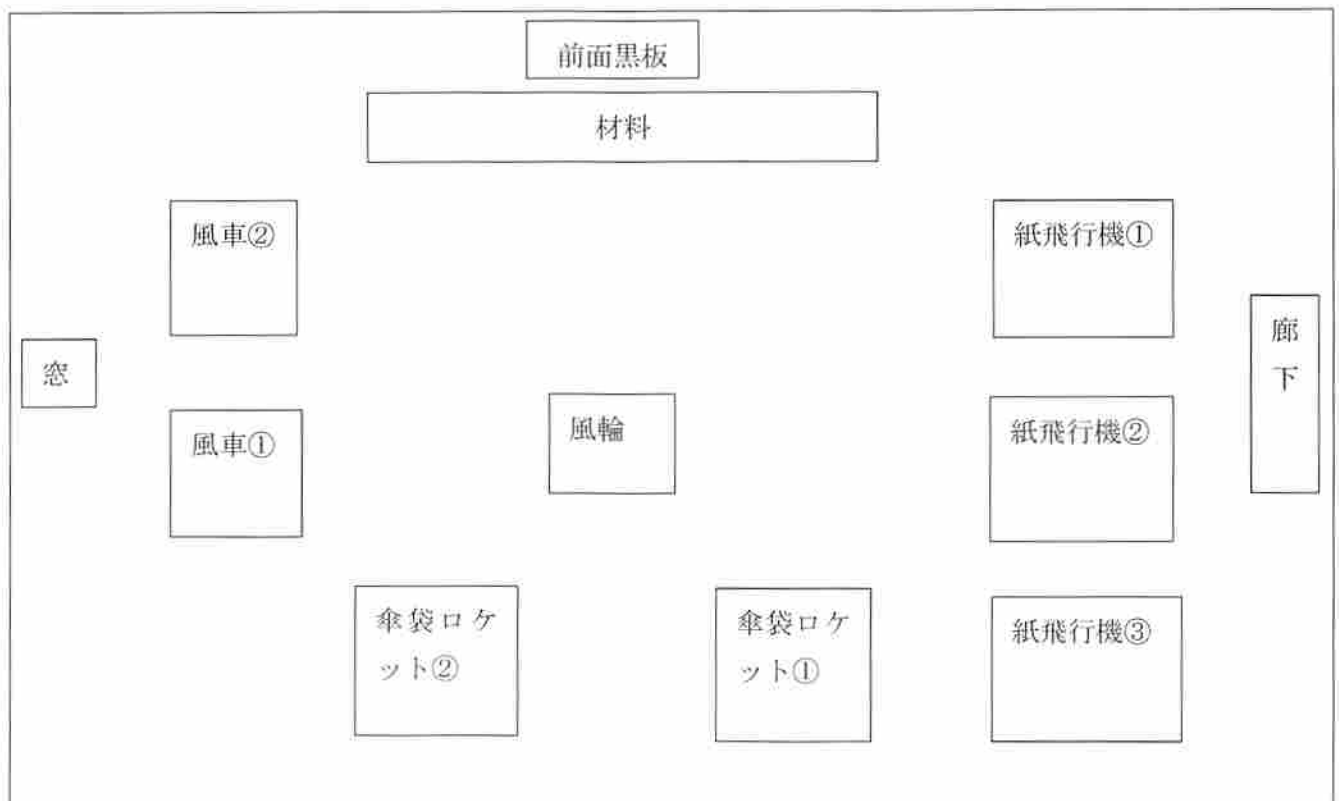
- ・次回はそれぞれの名人に教えてもらって、他のおもちゃも改良することを伝え、次時の活動意欲を高める。

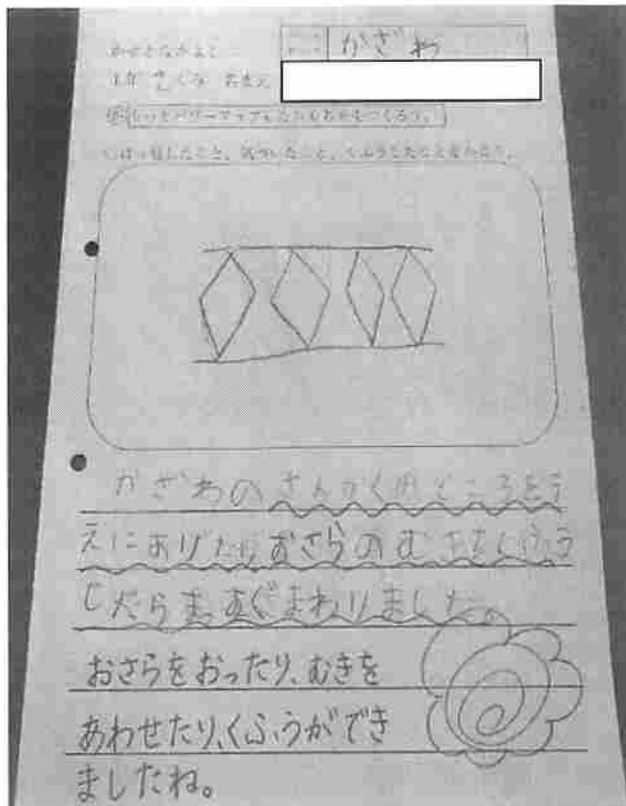
☆グループごとに、改良した点や気づきを発表したことで、次時の活動への意欲の向上や見通しをもたせることができた。(仮説1・手立て3)

③板書計画

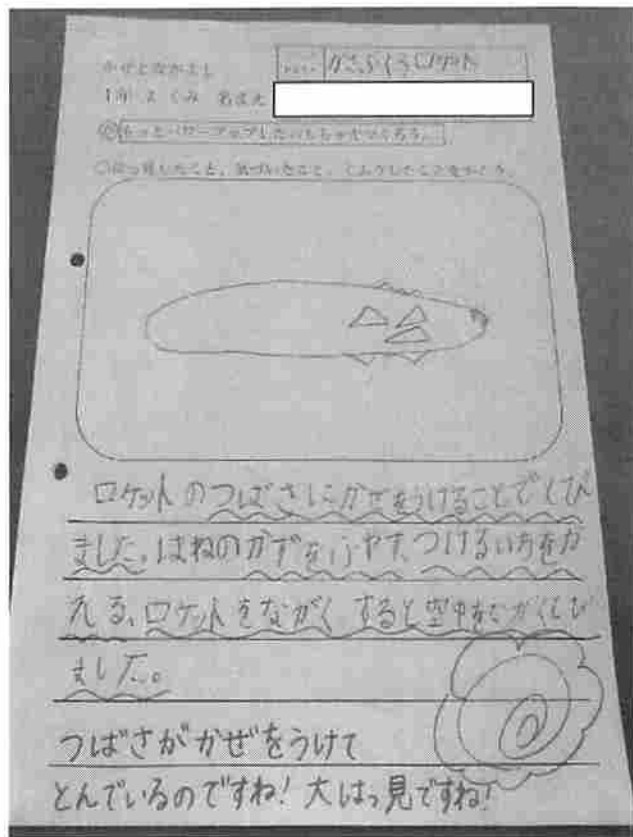


④場の設定





「風輪」
 2枚の紙皿の向きを変えたら、まっすぐ進むようになった。
 風輪の三角のところを細く切ったり、2枚の紙皿の距離を離してホッチキスで留めたりしたら、倒れずに進み続けた。



「傘袋ロケット」
 羽の数を増やすと遠くに飛んだ。
 羽の付ける位置を変えると、空中を長く飛んだ。

5 授業実践（2年）

※本実践は、令和4年度2年生の実践をもとに、授業改善や仮説の検証を行った。

（1）単元名 つくる楽しさはっけん

（2）単元について

① 単元観

本単元は、小学校学習指導要領の以下の内容に該当する。

- （6）身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりするなどして遊ぶ活動を通して、遊びや遊びに使う物を工夫して作ることができ、その面白さや自然の不思議さに気付くとともに、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとする。
- （8）自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を通して、相手のことを想像したり伝えたいことや伝え方を選んだりすることができ、身近な人々と関わることのよさや楽しさが分かるとともに、進んで触れ合い交流しようとする。

本単元は、2つの小単元で構成されている。小単元「おもちゃを作ってみよう」では、児童の自分で作ってみたいという思いを大切に、好きな材料を選ばせて思いにあったおもちゃを作ることができるようにする。小単元「楽しさのひみつはっけん」では、グループの活動を通して、「学び合い」「教え合い」活動を通して、よりよいおもちゃにするために気付きを高められるようにしたい。

② 児童の実態

本学級の児童は、前単元の「町はっけん」の学習を通して、グループごとに探検計画を立てたり、見学したりと活動してきた。グループ活動を通して、友達と関わり合いを楽しんできた。しかし、児童同士で学び合ったり、教え合ったりという所まではできていない。今回は、「おもちゃづくり」の活動を通して、学び合いや教え合いを深めていきたい。

③ 指導観

単元の導入では、オリエンテーションを通して単元の流れを提示し、「紙とんぼ」「びよんびよんがえる」「ゴムロケット」「かいじゅうスピーカー」作りに見通しをもたせて、おもちゃ作りに対する意欲を高められるようにする。そして、おもちゃの『博士』になり、友達に作り方のコツや遊び方を教えてあげられるようにすることを伝えることで、意識付けを行っていく。どのおもちゃの『博士』になりたいのかを決めさせ、『博士』になるためには、「どのような順番で作っていけばいいのか」「どのような様子になったら、よい遊び方なのか」などを確認させながら、よりよいおもちゃとなるように何度も改良を重ねて、気付きの

質を高められるようにしていく。また、友達との関わり合いとして、『博士』に作り方や遊び方を教えてもらい、学び合いや教え合いを深めていきたい。

グループで活動する「教え合い」や「伝え合い」の場面では、教科横断的視点から国語科の「おもちゃのせつめい書を書こう」の学習をあわせて行い、作り方や遊び方を順序に気を付けて分かりやすく説明することを意識させたい。

(3) 単元の目標

- ・動くおもちゃや音の出るおもちゃなどについて、動きや音の出る面白さや不思議さ、みんなで遊ぶ楽しさに気付くことができる。

(知識及び技能の基礎)

- ・試行錯誤を繰り返しながら、身近にあるものを使っておもちゃを作ったり遊んだり、遊び方を考えたりすることができる。

(思考力、判断力、表現力等の基礎)

- ・友達とのつながりを大切にし、よりよい遊びや遊び方を創り出そうとしている。

(学びに向かう力、人間性等)

(4) 指導と評価の計画 (9時間扱い)

時配	学習内容と学習活動	評価基準 (評価の観点) 【評価方法】
1	小単元「おもちゃを作ってみよう」 ・「ぶんぶんごま」を作る。	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなと楽しく遊びたいという思いや願いをもって、おもちゃ作りに取り組もうとしている。 (主体的に学習に取り組む態度) 【発言・行動】
2	・生活班4人グループとなり、「紙とんぼ」「びよんびよんがえる」「ゴムロケット」「かいじゅうスピーカー」の中から1つを選び、作る。	
3・4	・教科書や動画などを参考にして、おもちゃの作り方や遊び方を考える。 ・それぞれが選んだおもちゃごとに分かれグループとなる。 ・おもちゃに必要な材料や道具を考えて用意する。	
5	小単元「楽しさのひみつはっけん」 ・自分で作ったおもちゃで遊んだり、友達と競争したりする。 ・友達同士で話したり、教え合ったりしながら、よりよいおもちゃを作る。	
6	・自分の生活班に戻り、生活班のみんな	<ul style="list-style-type: none"> ・作ったおもちゃの動きと特徴や面白さに気付いている。 (知識・技能) 【ワークシート】 ・よりよいおもちゃを目指して、友達のおもちゃと比べたり、試したりし

7・8 本時 9	<p>で4つのおもちゃの作り方と遊び方を紹介する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『博士』になり、作り方や遊び方を班のみんなに教える。 ・おもちゃづくりを通して楽しかったことやよかったことを振り返る。 	<p>ながら、改良している。</p> <p>(思考力・判断力・表現)【発言・行動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作り方や遊び方を教えながら、友達と関わり合いをもっておもちゃを作ったり、遊んだりしている。 <p>(主体的に学習に取り組む態度)</p> <p>【発言・行動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おもちゃの不思議さや面白さに気付いている。 <p>(知識・技能)【ワークシート】</p>
----------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(5) 本時の指導 (7/9)

① 目標

- ・動くおもちゃづくりに関心を持ち、友達と教え合いながらおもちゃを作ることができる。

(主体的に学習に取り組む態度)【行動・発言】

- ・材料を選んだり、作り方を考えたりと試行錯誤しながら、おもちゃの作り方や遊び方を工夫しようとする。

(思考力・判断力・表現力)【ワークシート】

② 展開

時配	学習内容と学習活動	・指導と支援 ○評価 ☆仮説との関連	資料
3	<p>【見いだす】</p> <p>1 本時の学習内容を知り、めあてを確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・発表に使うものをあらかじめ用意しておく。 ☆「学習の流れ」を掲示したことで、見通しをもって学習に取り組むことができた。 <p>(仮説1・手立て4)</p>	
<p>『はかせ』のはっぴょうを聞き、おもちゃを作ってあそぼう。</p>			
12	<p>【自分で取り組む】【広げ深める】</p> <p>2 ○○『博士』の発表会を行う。</p> <p>「紙とんぼ」→高く、遠くへ</p> <p>「びよんびよんがえる」→高く</p> <p>「ゴムロケット」→高く、遠くへ</p> <p>「かいじゅうスピーカー」→大きく</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な発表会となるように約束などを確認する。 <p>(仮説1・手立て4)</p>	<p>仮目</p> <p>ストロー</p> <p>輪ゴム</p> <p>トイレッ</p> <p>トペーパー</p>

一の芯
わりばし
ビニルテ
ープ
ワークシ
ート

わりばしを強く引くと遠くにとびます。



・『博士』の発表を聞き、作ってみたいと思ったおもちゃを作り、遊んでみる。

25

・安全に遊ぶために、ルールを確認する。

わりばしにひっかけるんだよ。

輪ゴムはどこにかけたら、いいかな。



輪ゴムを引っかける時は、こうするといいよ。

○動くおもちゃ作りに関心をもち、友達と教え合いながらおもちゃを作ろうとしている。

(主体的に学習に取り組む態度)

【行動・発言】

☆伝え合う場を多く取り入れたことにより、分からないことを「博士」に聞いたり、教えたりする姿が見られた。

(仮説2・手立て2)



わかった。

○材料を選んだり、作り方を考えたりと試行錯誤しながら、おもちゃの作り方や遊び方を工夫している。

(思考力・判断力・表現力)

【ワークシート】

☆試行錯誤を繰り返す活動を通して、よりよいおもちゃを作ることができた。

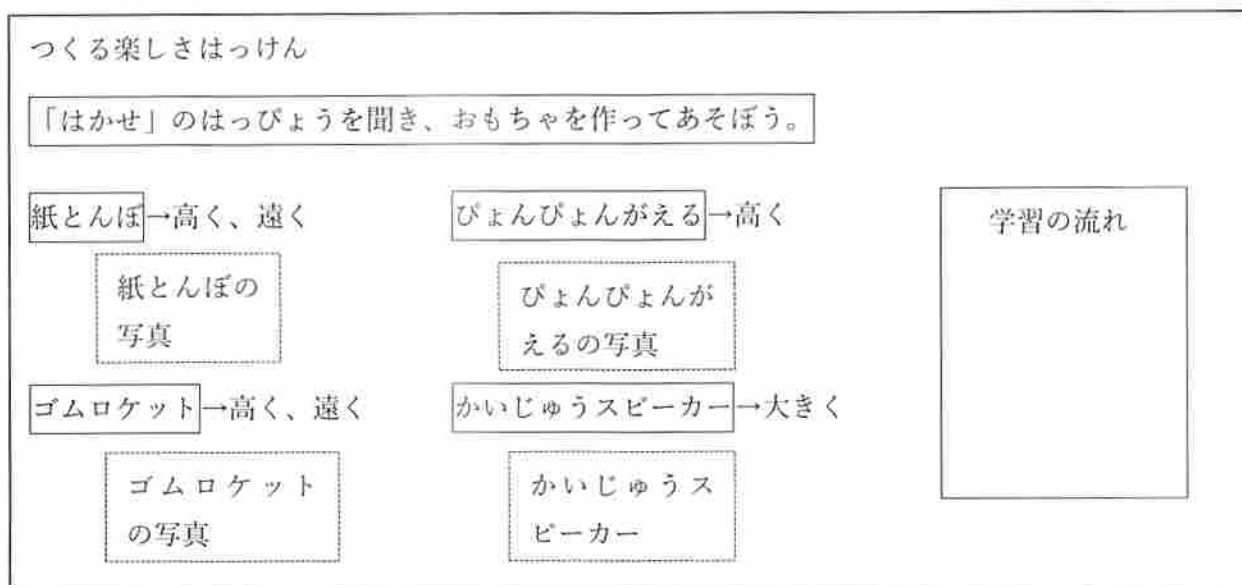
(仮説2・手立て1・2・4)



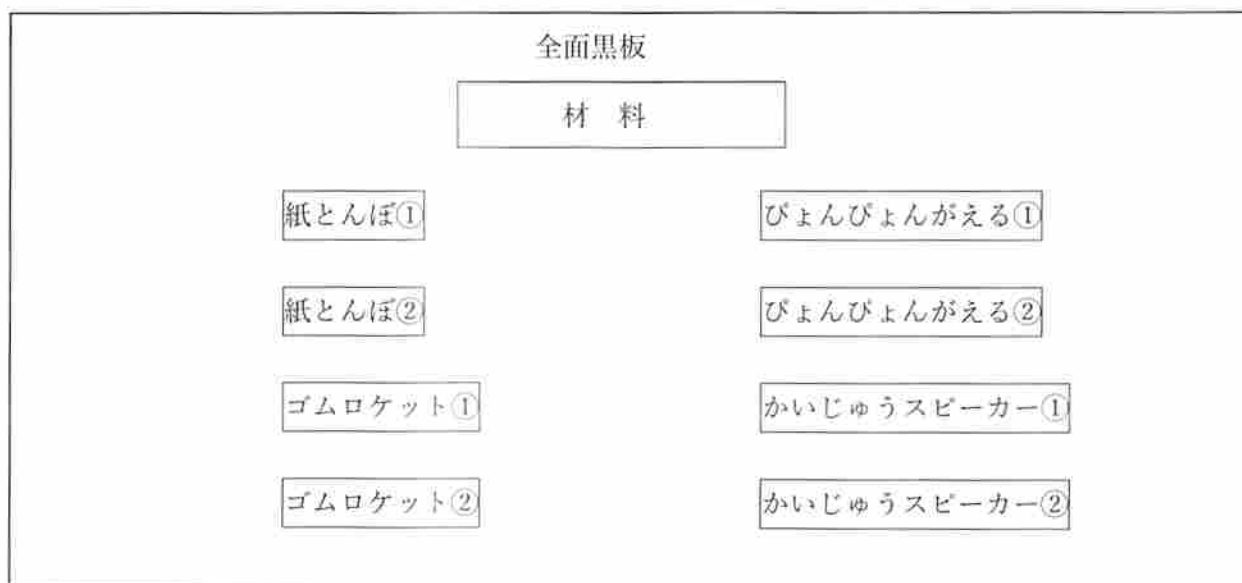
このぐらいにわりばしをつけるといいよ。

5	<p>【まとめあげる】</p> <p>・本時の振り返りをするとともに、次時の活動について知る。</p>	<p>☆友達に称賛されたことで、自己肯定感が 高まり、意欲と自信をもって取り組むこ とができた。</p> <p>(仮説2・手立て2と4)</p>	
---	-----------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------	--

③ 板書計画

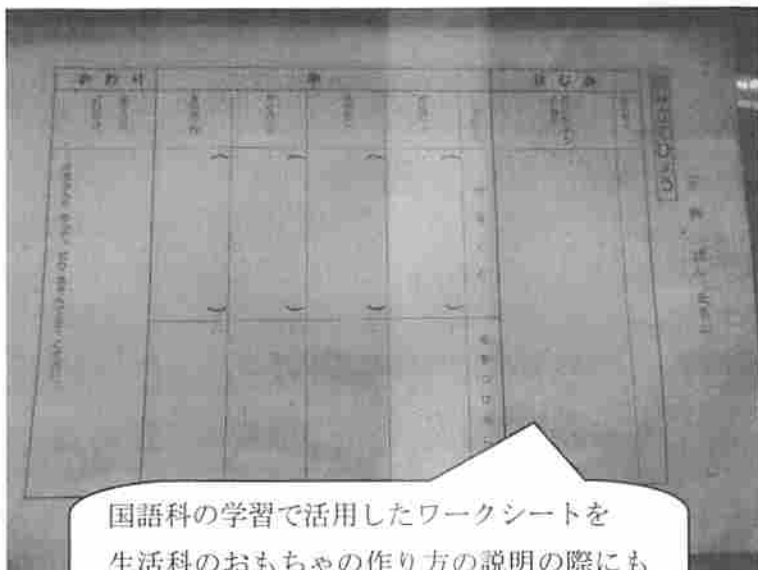


④ 場の設定



(6) 児童のワークシート、改良した作品
 〈作り方説明書〉

〈国語科「おもちゃのせつめい書を書こう」から
 「自分で作成した説明カード」〉



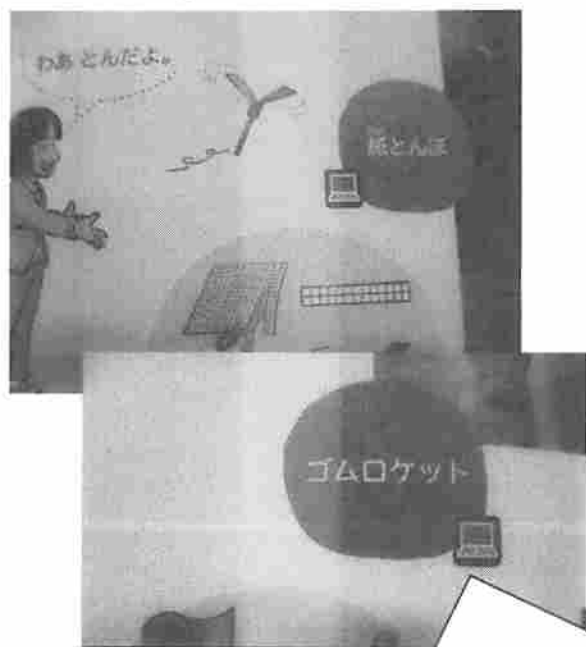
国語科のワークシートにあわせて、作
 り方の説明書を作成しました。

国語科の学習で活用したワークシートを
 生活科のおもちゃの作り方の説明の際にも
 使用しました。

〈ICTの活用〉

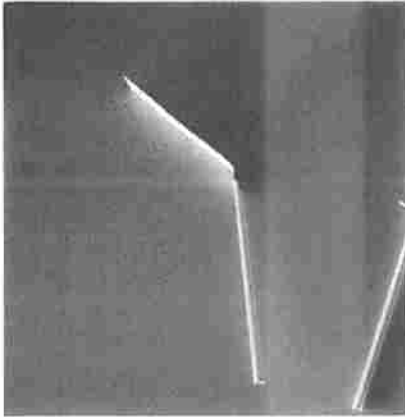
教科書からQRコードを読み取る

〈単元計画〉



デジタルコンテンツの活用
 教科書裏面のQRコードより、「たのしい せいかつ
 ウェブ」を見ることができます。

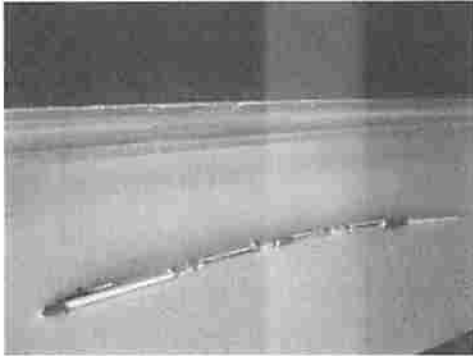
見通しをもって学習に取り組めるよう
 に「学習の流れ」を提示しました。



「紙とんぼ」

前：説明カードに書いてあった、紙の長さで作った。
後：紙の長さを変えて、長くしたり、短くしたりした。

長くしてみると重たくなってしまったり、短いと高くとばなくなってしまったりするので、ちょうど良い長さをつかむのがむずかしかった。



「ゴムロケット」

前：説明カードに書いてあった、わりばしの長さで作った。
後：わりばしの長さを変えたり、ゴムの量をふやしたりした。

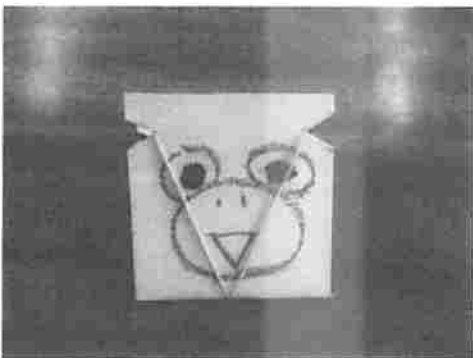
わりばしを長くすると、かっこよくなったが、とばしにくくなるのが分かった。



「かいじゅうスピーカー」

前：紙コップと竹糸で作った。
後：紙コップ以外の物を使ったり、糸を竹糸以外にしたりした。

糸を変えると音も変わること気が付いた。太い糸にすると音が大きくなった。



「びよんびよんがえる」

前：板目とゴム一本で作った。
後：ゴムの数や太さを変えてみた。

ゴムの数を増やしたり、太いゴムに変えたりしてみた。ゴムの巻き方をきつくするととぶ高さが変わることが分かった。

6. 成果と課題

仮説1 学習のゴールを明確にした学習計画を工夫したり、児童に身に付けさせたい資質や能力を明確にしたりすれば、見通しをもって学習に取り組み、確かな学力を身に付けることができるだろう。

- 授業の初めに、「学習の流れ」を示したことで、児童が単元を通して、見通しをもって活動ができた。(1、2年)
- おもちゃ作りの際、自分で作成した説明カードやICT機器を活用したことで、児童が意欲的に取り組むことができた。(2年)
- 身近にあるいろいろな材料を提示したことにより、児童が自分で材料を選ぶことができ、主体的に取り組むことができた。(1、2年)
- どのような様子になったらよい遊び方なのかを追究していく中で、試行錯誤を繰り返し、条件を変えて試してみる過程で、気付きの質が高まっていった。(1、2年)
- 日常生活の中で、繰り返し行われている活動の場においても、自分自身で考えたことを行動に移すことができ、気付きの質が高まっていると感じた。(1、2年)
- △班ごとに目指す目標が違かったので、単元通して目標を意識し続けることが難しかった。視覚的に目標を提示する手立てが必要であった。(1年)

仮説2 友達の良さを称賛する活動を取り入れたり、他者と伝え合い、交流する場を工夫したりすれば、自他の成長を喜び合える、前向きで活力あふれる児童を育成することができるだろう。

- 伝え合い活動を多く設定したことにより、自分では気付かなかったことを教えてもらったり、友達が見せたものを見せてもらったりすることで、気付きの質が高まり、「わかった」「できた」の声が飛び交い、笑顔がたくさん見られた。(1、2年)
- 自分が作ったおもちゃを友達に称賛されたり、一度作ったおもちゃの説明するときに「博士」と呼ばれたりすることで、児童は、喜びを感じ「もっと…」という気持ちになり、意欲の向上が図られた。(1、2年)
- おもちゃ作りの時間を十分確保することで、児童は、たくさんの言葉を交わし、頻繁に気付きを伝え合うことができた。(1、2年)
- おもちゃ作りを通して、「材料を変えてみたらどうなるのか」「もっと飛ぶようにしたい」など意欲が高まる様子が見られた。図書室で「おもちゃ作りの本」に興味を抱き、借りる児童も見られた。(1、2年)
- 今まで、学級の中で活躍する場面が少なかった児童が、友達に称賛されたことで、自己肯定感が高まり、活動後は意欲と自信をもって何事にも取り組むことができた。(1、2年)
- △全ての単元で行うことは、時数的に難しいと感じた。(1、2年)